



東京の会通信

No.302

2022年5月1日号
(隔月1日発行)

発行：骨髓バンクを支援する
東京の会

〒101-0031 東京都千代田区
東神田1-3-4 KTビル3階

TEL：03-3866-8171
(FAX兼用)



<http://www.marrow.or.jp/tokyo/>
e-mail:marrow_tokyo@yahoo.co.jp

定価 100円

今年も大盛況！新宿中央公園 「2022献血・骨髓ドナー登録活動」

主催：東京新都心ライオンズクラブ

昨年に引き続き、東京新都心ライオンズクラブ・西新宿角三町会の皆様のご尽力で、新宿中央公園での「2022献血・骨髓ドナー登録活動」が開催されました。「3.11復興支援イベント」なので本来であれば例年3月に実施するのですが、まん延防止等重点措置が取られていたため、1カ月遅れの4月10日開催となりました。（イベントは今年も自粛）献血とドナー登録者を募り事前予約制での開催なので、予約時間に集まり待ち時間が短縮されるほか、来場者の数も事前に把握でき受付がスムーズに進みます。日本赤十字社としてもこの方式での献血会をもっと増やしたいと意欲的でした。骨髓バンクの登録説明員も朝8時30分から10名が準備万端整え、説明ブースが一杯になりました。またボランティア3名・全国協議会事務局3名が公園内をのぼりとプラカードを持って献血＆ドナー登録を呼び掛けました。毎年ではありますが、主催の東京新都心ライオンズクラブ・西新宿角三町会の皆様に感謝申し上げます。

「東京新都心ライオンズクラブ」会長の八代麻貴子様からのメッセージを掲載いたします。

東京新都心ライオンズクラブ 会長 八代麻貴子

風もなく暖かい2022年4月10日の日曜日、新宿中央公園水の広場で「献血・骨髓ドナー登録活動」をおこないました。

朝8時に集合し、ライオンズメンバーとボランティア、日赤職員、公園関係者の方など沢山の仲間たちと、テントを張ったり、机や椅子を並べたり…。今年は献血車を2台配車し、昨年同様、感染対策と待ち時間短縮の観点から、事前登録制を導入しました。15分ごとに8名ずつ、1時間で24名の枠に対し、事前予約制で名前、来場時間、当日の連絡先、ご紹介者の枠を埋めていきました。

当日は誰が来場するか事前にわかっているので、とてもスムーズで素晴らしい！いつも受付の机に献血希望者が万遍なく来場してきました。ただ、問題は事前の人集めの大変さでした。私も会長として、何とか力になりたいとFacebookで呼びかけたり、たくさんの方に声を掛けましたが、この歳になると周りの人たちは持病があったり、前回の献血から日にちが空いていないので無理だったり、大変さを痛感しました。

今回は、我が東京新都心ライオンズクラブより新た



に発足予定の青年支部のメンバーが、朝一番の準備から力仕事を積極的に手伝ってくれ、ライオンズのメンバーでもある西新宿角三町会長のお孫さんを先頭に若者がたくさん仲間に声をかけてくれました。今年の献血受付人数は109名。そのほとんどが若者です。お孫さんのお母様は朝イチから献血にやってくる若者一人一人に声を掛けて、感謝を伝え続けてくれました。お陰で、若者たちがキラキラ顔で受付にやってきてくれます。こっちまで嬉しくなりました。普段から良い信頼関係があつてこそその成果だと、頭が下がる思いを抱きました。

午後になり汗ばむような陽気になり、公園は多くの人で賑わっています。スタッフたちが「献血のお願い」というプラカードを持って公園内を練り歩きます。お陰で当日飛び入りで21名の方が献血に協力頂きました。最終的に受付は121名、献血者は93名という結果となりました。ドナー登録も事前受付は15名だったにもかかわらず、昨年の倍近い37名の登録となりました。

同時にウクライナ寄金と西新宿子供食堂「ユニコーン」の啓蒙ブースも設置し、多くの方々の愛の募金も集まりました。ご協力頂いた全ての方に心より感謝申し上げます。今後も他者のために献血・ドナー登録をすることの大切さを広めていきたいと思えます。



「佐藤きち子基金」へのクラウドファンディング寄付、 1,000万円の目標達成！

東京の会通信3月号で途中経過をお伝えした「佐藤きち子基金」クラウドファンディングが、最終日の3月31日、目標額の1,000万円を突破し見事目標達成しました！45日間に渡り関係各所に情報拡散し、実際に寄付をいただいた皆様、本当にありがとうございました！おかげさまで490名の方から10,101,232円の寄付をいただきました。骨髄移植や血液難病について知らなかった方々から「初めて知りました。応援してます」などのメッセージをいただき、この企画が情報の発信など寄付以上の成果につながったことを実感しています。佐藤きち子さんは「あやちゃんの贈り物展」であやちゃんの絵に出会い、金銭的な問題で骨髄移植ができない人に使ってくださいと寄付をお父さんの三瓶和義さんに託されました。三瓶さんご一家の、最終日の模様を報告していただきましたので以下に掲載いたします。

目標額達成だ！！

かかわったすべての皆さまに感謝、感謝！！

骨髄バンクを支援する東京の会 代表 三瓶和義

3月31日午後11時少し前から、1,000万円に到達するのか、かたずをのんで見守っていました。午後10時45分頃から990万円台から動かず、応援コメントを見ると大谷貴子さんが何回か書き込みをしているのに気づきました。

午後10時55分頃、娘の優子から「大谷さんが何回も寄付をしているようだけど、このままだと到達しないかもしれないから、残りの額は私が寄付するから」と電話が入りました。そこですぐ家族での打ち合わせとなり、娘からは「主人にも2回目の寄付をお願いしたから、残りは家族の割り勘だからね」と念を押された承したところ、11時直前に目標額に達成し、「やったー」と妻の正子と二人で喜び合いました。同時に、家族全員で取り組んでいたのも、正直なところ、これで、訴えかけた方々に顔向けができるとの思いでほっとしました。本当にぎりぎりの時間での到達でした。

私は、きち子基金創設に当初からかかわった一人として、今回の企画をされた全国協議会、呼びかけに応じて寄付を寄せてくださった皆様、成功させるために関わったすべての皆さまに心からお礼を申し上げます。

今回の取り組みには、彩ちゃんの姉、弟、そして親である私たち夫婦と家族総出で取り組みました。姉の優子と弟の健明からは、「もっと早く教えてくれなければ困る」などと言われ、2人で相談した動画を新着情報に投稿してくれました。

妻も、最終盤に差し掛かるころに、自分の似顔絵の思い出とともに、きち子基金を存続させるためとして原稿を寄せました。また、報道各社の記事についても大きな影響がありました。

クラウドファンディングが終了して1週間後に孫（新着情報に映っています）を連れて泊りに来た優子は、「時間ぎりぎりまで目標に到達し少しはお役に立ったと思う。きち子基金を絶やさないよう、新たな責任ができたので、これからも弟と連絡し合っていく」と語り、彩ちゃんの思い出とともに今後の決意を語っていましたが、今回のクラウドファンディングは、これからは家族全員で取り組んでいく良いきっかけになったと思います。

ついでにですが、4歳目の孫が、私の誕生日の1週間後に自らケーキを用意し「ハッピーバースデー、ジイ爺」と大きな声で歌ってお祝いしてくれたことを書き添えて、家族一同の報告としたいと思います。関わっていただいたすべての皆様、本当にありがとうございました。

2021年度のドナー登録推進活動報告

コロナ禍で変わった献血ルームでの活動とこれからの問題点

松下 倫子

2020年の年明け、中国で始まったコロナウイルスの感染が日本にも拡がり、2月下旬から東京の会の献血ルームでの活動は最初の休止期間に入りました。

2020年度になっても4月に1回目の緊急事態宣言が出て活動が休止したままでしたが、6月に解除になってから日赤と登録会再開に向けて活動方法を相談して、7月より再開しました。献血ルーム内で「密」を避けるため参加説明員は2名まで、検温・手指の消毒・マスク着用の徹底、ルームの指示に従って登録の説明を行うという取り決めができ、コロナ禍のこの2年間はこれがあたりまえになりました。

東京の会では以前は5～6名で献血ルームへ行き、交代で説明したり、入口でドナー登録案内のチラシを配ったり、外に出て道行く人に献血の呼びかけをしたり、「チーム東京の会」で力を合わせて元気ある活動を行っていました。それが2名しか参加できないとなると、説明の合間に外に出て献血の呼びかけをして気分を変える余裕がなくなり、感染拡大防止のためにチラシ配布もできず、登録会時間中はずっとルーム内での説明に専念するようになりました。説明員一人一人にかかる責任が重くなったようにも感じられ、残念ながら東京の会のメンバー同士の交流を深めながら楽しく活動するという以前の雰囲気は減りました。

また、ルーム内が「密」になることを避け、1日を通して万遍なく適正数の来場者があるようにと、日赤は「予約してから献血に来る」ことを強く来場者をお願いするようになりました。以前から成分献血の人には、献血ベッドを空けることなく順にスムーズに案内するために、献血前にドナー登録の説明をすることは出来ませんでした。それに加えて予約で来た人にも、時間通りに献血してもらおうため「ドナー登録の説明を聞きませんか?」と声をかけることが出来なくなってしまいました。予約なしで来た全血献血の人にも、ルーム職員から合図をもらって声をかけて説明することしか出来なくなって、説明員はひたすらルーム内に立って合図を待つことが仕事になりました。

このように参加説明員の負担が大きくなったことや、参加者が2名だけとなると急に行けなくなった時に代わりの人を手当てしなくてはならないと考えて「参加します!」と手を挙げるのを躊躇するメンバーもいて、段々参加者を確保するのが大変になっていきました。

それでも2020年は7月から12月までは予定していた9回の活動を実施、感染防止対策のため、小まめにテーブルや説明グラビア、筆記用具を除菌シートで拭いて消毒、説明の際には正面には座らずに距離を取る

ように気遣いながら、マスク越しでも聴き取れるようにはっきり話すことを意識するなど、コロナ禍での登録会のやり方が定着していきました。

しかし、2021年になるとすぐ2回目の緊急事態宣言が発令され、再び献血ルーム活動が休止となりました。4月に年度が変わり、2021年度が始まってからも3回目の緊急事態宣言で休止が続き、6月20日に解除になってようやく7・9・10・12・2月に1回ずつ日曜日に有楽町献血ルームで活動する計画を立て、7月11日に2021年度の活動を開始することができました。その日、献血来場者は200名を超えて、コロナ禍であっても多くの協力があることに感激しながら説明を行い、7名の登録がありました。更に、新しく東京の会に入会したメンバーが見学に来てくれたこともあり「今年度は順調に活動が出来ますように!」との明るい希望を持ちました。

しかしその後コロナの感染がまた拡大、9月末まで4回目の緊急事態宣言が出ていたため、9月の活動は休止しました。10月と12月は登録会を再開して、それぞれ7名ずつのドナー登録者を得る活動が出来ましたが、2022年に入ってから再度感染拡大でまん延防止等重点措置が取られ、2月に予定していた活動は休止、結局2021年度の献血ルームでの活動は3回の実施となりました。

献血ルーム以外の活動では、2019年度から始めた西東京市役所での献血併行ドナー登録会が、2021年度は8月と3月の予定でしたが、8月は緊急事態宣言が出ていたのでこちらから日赤に実施のお願いをしませんでした。

<コロナ禍献血ルーム活動>

	月	日	曜日	献血ルーム	登録者数
2020年					
	1	24	(金)	有楽町	(3)
	2	8	(土)	有楽町	(9)
	3				
	4				
	5				
緊急事態宣言	6				
	7	11	(土)	新宿	(8)
		24	(金)	新宿	(3)
	8	27	(木)	有楽町	(5)
	9	23	(水)	新宿	(7)
	10	11	(日)	有楽町	(10)
		23	(金)	新宿	(5)
	11	26	(木)	有楽町	(2)
	12	5	(土)	新宿	(12)
		16	(水)	新宿	(7)
2021年					
	1				
	2				
	3	13	(土)	新宿	(7)
		25	(木)	新宿	(5)
	4				
	5				
緊急事態宣言	6				
	7	11	(日)	有楽町	(7)
	8				
	9				
	10	10	(日)	有楽町	(7)
	11				
	12	12	(日)	有楽町	(7)
2022年					
	1				
	2				
	3				
	4				
	5				

有楽町…有楽町献血ルーム
新宿…新宿東口駅前献血ルーム

3月は献血会場に使用していた会議室がコロナワクチン接種会場となり使えず、外の献血バスでの実施となり、ドナー登録説明用のテーブルを設置するスペースが無いから登録会は行わないと日赤から連絡がありました。細々ではありますが、献血ルーム以外でもと取り組んで来た西東京市役所の登録会が2021年度はコロナのために実施出来なかったのは残念です。

10年に渡って新宿東口献血ルーム時代から継続して東京の会が登録会を行って来た新宿東口駅前献血ルームに、2021年度4月から骨髓バンクが常駐の説明員を置くようになりました。そのため東京の会の登録会が出来る場所が有楽町献血ルームだけになってしまいました。そこで5月に7名の説明員が連絡先を登録して、骨髓バンクから協力して欲しい登録会の情報を送ってもらい、大学などでの登録会に参加協力するようになりました。ただ、東京の会の説明員のほとんどが平日開催の登録会に参加出来ないため、なかなか協力出来

ていないのが実状です。

この、平日に参加出来る説明員の減少という問題で、2018・2019・2020年度に月1回平日に実施していた献血ルームでの登録会を、2021年度は参加説明員確保が難しくなり、取りやめにしました。そのために2021年度の活動回数が以前と比べて大きく減少しました。説明員の中には元患者さんや患者家族、高齢者や、家族に高齢者がいる、あるいは仕事柄からなど、感染リスクを避けなければならない理由で活動に参加したくても現在は参加出来ない人もいます。実際に活動に参加出来る説明員の不足が、いま東京の会では大きな問題となっています。

今後も登録会活動を続けて行くには、コロナが収束してくれることが一番望むことですが、参加しやすい方法を考えてメンバーに参加を呼びかけて行く更なる努力と、新しく説明員を増やす手立ての検討が必要になってきていると思います。

東京の会 「5月、6月定例会」 のお知らせ

5月21日(土)、6月18日(土) 午後5時30分より

定例会の開催については新型コロナウイルスの感染拡大状況を考慮し、Zoomでも配信するハイブリッドで実施します。

会場：こくみん共済coop東京会館
(旧：全労済東京会館) 3階会議室
※JR新宿駅西口下車7分(新宿区西新宿7-20-8)
※地下鉄丸の内線西新宿駅下車1番出口徒歩2分
青梅街道新宿警察署向かい・「キャン☆ドウ」角入り右側

※7月定例会予定・2022年7月16日(土)午後5時30分より

東京ドナー登録会予定(5月)

5月24日(火) 玉川大学

5月25日(水) 府中運転免許試験場

5月31日(火) 千代田区役所

東京の会で活動を始めた、新しい仲間をご紹介します

東京の会の定例会やおりおり、そしてドナー登録会場へ、若い、新しい仲間と一緒に活動してくれています。すでに顔なじみの方もいらっしゃいますが、新人さんをご紹介します。



宮本 奈津美さん

以前、血液疾患について勉強する機会があり、その際骨髓バンクの存在に目が留まりました。白血病等の血液疾患の治療には、何よりも私たち健康な人の協力が不可欠という点が胸に刺さりました。私たちの協力がなければ、患者さんがどうになってしまうのだろうと不安な考えが頭をよぎります。私自身も年とともに体調に異常を来すことがあり、病気で苦しんでいる患者さんの立場で考えることができるようになりました。

皆さんも人生に一度は病気に罹ったことがあるかと思います。その時にその疾患の重みを実感したのではないのでしょうか。白血病の患者さん達を救うには、その疾患を患ってから私達が手を差し伸べるのでは遅いのです。

この疾患の特殊な点として、ドナー登録したとしても患者さんの命を救える確率は数百から数万分の一です。更にドナーの方の時間、労力、家族の協力を必要とし、そして何より身体的侵襲を伴います。

適合した場合ドナーは相当な覚悟で臨むわけですが、それによって一人でも多くの患者さんが助けられる、その意味・意義を伝えてきたいです。

東京の会には心温かい方達ばかりです。メンバーの方々の手厚いサポートによって楽しんで活動しております。





大畑 幸司さん

大畑幸司と申します。1983年生まれの38歳です。現在アクサ生命保険にて保険営業を行っており、家族は妻と小学生の息子がおります。

骨髄バンクを支援する東京の会へは自分から連絡を取り、定例会に参加させていただきました。参加した理由の1つは、自分を取り扱っていた生命保険の給付事例の中に骨髄幹細胞の採取術（骨髄ドナー提供）とあったことです。しかし、保険金が給付されるためには保険の責任開始日から1年を経過した日以後に受けたものが対象になると約款で定められており、このことについては勉強しなくてはいけないと考え、ネットで骨髄ドナー提供を調べたことが始まりでした。

2つ目の理由は、東京オリンピックに出場された池江璃花子さんが白血病になったというニュースを見たからです。年齢が若く、オリンピックに出るほど体を鍛えているような人でも白血病になるのだから、自分も関わりがあるかもしれないという自分事を感じられたことがありました。

会に参加してみて、あやちゃんの画集を読んだ時には鳥肌が立ちました。あやちゃんはほぼ私と生まれ年が同じ。そして年齢は私の息子とほぼ同じだったからです。私が生きてきた時間の中にも世の中にはたくさんの不条理があったということを感じました。

今後の人生の中でも白血病という病には関わっていくと思います。少しでもその不条理から救い出せるお手伝いができたらと思います。よろしくお願いします。



中根 悠貴さん

このたび東京の会に参加させていただくこととなりました、中根悠貴（なかね ゆうき）と申します。茨城県銚田市出身で、平成13年生まれです。一昨年から、中央大学法学部において法律（労働法）を専攻しています。

白血病の患者さんの闘病記等を拝見する中で、自分も何かできればという思いや、学生のうちに少しでも社会の役に立ちたいという思いを抱いていました。そうした中で登録説明員の募集を見つけ、昨年から活動しています。そしてその中で松下さんから声を掛けいただき、会にご一緒させていただくこととなった次第です。

定例会や「おりおり」の活動に参加した際には若木さん・松下さんはじめ皆さんから優しく声を掛けいただき、安心するとともに、一日でも早く対面での活動ができればとの思いを強くいたしました。また、昨年ドナー登録をしたところ、一か月ほどで適合通知を受け取ったことから、同世代のドナーを増やしてゆくことの重要性を感じました。会でも、そうした活動に微力ながら協力させていただきたいと存じます。

これから末永く活動してまいりたいと存じますので、ご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願いいたします！

今年の「ボランティアの集い」も、昨年同様Zoomで配信します！

5月28日（土）14:00～15:30

全国骨髄バンク推進連絡協議会 主催

「2022全国骨髄バンクボランティアの集いin東京」

ディスカッション『＜原点回帰＞骨髄・末梢血採取で骨髄提供はできただけれど・・・
まだ足りない！「ぼくにはドナーがいません！」』

大谷貴子さんのコーディネートで、骨髄・末梢血採取した2人のドナーさんから提供するきっかけと採取方法の詳細を語ってもらいます。しかし、まだ適合せず、ドナーを待っている人がいます。ドナーを待つ5歳の男の子のお父さんにも登場いただきます。原点に戻り、活動を始めた頃に立ち戻り「何のため・誰のため」と思いをめぐらせてみませんか？

QRコードから申込フォームでアドレスを登録すれば、招待メールを配信します。どなたでも視聴可です！



心のこもったご寄付ありがとうございました。(2022.2.16～4.15)

品川運輸（株）様 1,300円／匿名希望 7,000円

お寄せいただいたご寄付のうち、会費未納の会員からは会費(年3,000円)を差し引いて掲載させていただきました。



▼「セルフメディケーション税制」をご存知ですか？
確定申告での医療費控除の特例として新設され、2017年1月から2021年12月までだった実施期間が5年間延長となりました。街のドラッグストアなどで販売しているOTC医薬品の購入が1年間で12,000円を超えた場合、超えた部分の金額（上限88,000円）について所得控除が受けられます。

▼OTC医薬品とは、医師の処方が必要な医療用医薬品とは違い、街にあるドラッグストアなどで購入できる医薬品のことです。「Over The Counter(オーバー・ザ・カウンター)」の略が語源で、カウンター越しに医薬品を販売するスタイルに由来しています。またOTC医薬品の中には「スイッチOTC医薬品」と呼ばれるものもあり「医療用から転用された医薬品」のこ

とで、医療機関で処方される医薬品と同等の効果が期待できるものです。かぜ薬、胃腸薬、鼻炎用内服薬、水虫・たむし用薬、肩こり・腰痛・関節炎の貼付薬など市販の薬で箱に「セルフメディケーション税控除対象マーク」が付いている医薬品が対象となります。申告時に、購入した際のセルフメディケーション税制の対象であることが表示されている領収書が必要です。

▼「セルフメディケーション税制」は、国民の健康管理の意識を高めて医療費を削減することを目的として開始された制度で、自分自身で予防や健康維持のために正しく市販薬を使えるよう「医療費控除」の特例として設けられました。今回この税制が5年間延長され、対象医薬品の適用範囲の見直しや対象医薬品の除外、追加も行われました。病院での自己負担額が10万円には届かず医療費控除が受けられなかった方でも、OTC医薬品を12,000円以上購入すればセルフメディケーション税制により所得控除の制度が利用できます。まずはいつも買う薬がOTC医薬品か確認し、とりあえず領収書を保管しておくのはいかがでしょうか。
(A)

日本骨髄バンクの登録患者と検査済登録ドナー
(令和4年3月末日現在)

	ドナー(全国)	ドナー(東京)	患者(全国)
登録者累計	537,820	68,558	63,972
2-3月登録分	4,578	674	415
2-3月抹消数	5,194	610	-
実質登録増	▲616	64	-

患者とドナー登録・適合状況(3月末日現在)

ドナー登録受付者数(累計)	887,451人
ドナー登録抹消者数(累計)	349,631人
HLA適合報告ドナー数(累計)	354,265人
実質登録患者実数(現在)	1,732人(国内1,259人)
HLA適合患者数(累計)	50,924人(患者累計数の79.6%)
非血縁移植実施数	26,503例(2-3月実施204例)

7月会報発送

「おりおり」のお知らせ

日時：2022年7月3日(日)14時00分より
※発送作業は会報が発行される奇数月のみとなります。
※最新情報を東京の会ホームページ等でご確認の上、お越しください。

※今お読みになっている「東京の会通信」を約500部折って封入し発送します。どなたでもご参加いただけますが、必ずマスク着用の上、患者さんや元患者さん、持病のある方やご年配者など、感染リスクの高い方はご無理のないようお願い致します。なお、状況により発送作業を中止する場合は、メーリングリストやホームページ等でお知らせしますので、ご確認ください。

場所：全国協議会事務所(千代田区東神田1-3-4 KTビル3階)
交通：都営新宿線「馬喰横山」駅 徒歩5分
都営浅草線「東日本橋」駅 徒歩7分
東京メトロ日比谷線「小伝馬町」駅 徒歩7分
JR総武快速線「馬喰町」駅 徒歩5分

※9月「おりおり」予定 2022年9月4日(日)14時00分より

ご寄付と会費の納入、そして絵はがきや書籍・テレホンカードの購入は郵便振替にてお願いいたします。
皆様からの善意をお待ちしております。

ボランティアの運動にも資金が必要です。東京の会に活動資金のカンパを!

郵便振替口座番号 **00100-1-555195**
他銀行から振込みの場合 ゆうちょ銀行(9900) / 〇一八支店(018) 普通口座No.4180512
加入者名義 **骨髄バンクを支援する東京の会**